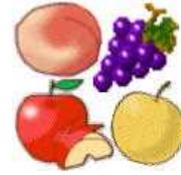


平成28年度 果樹情報 第8号

(平成28年7月6日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (6月後半：果樹研究所)

平均気温は、4半旬が22.2℃で平年より1.7℃高く、5半旬が20.9℃で平年より0.6℃高く、6半旬は20.6℃で平年より0.3℃低く経過しました。
4半旬から6半旬の降水量は53.5mmで平年の65%でした。

2 土壌の水分状況

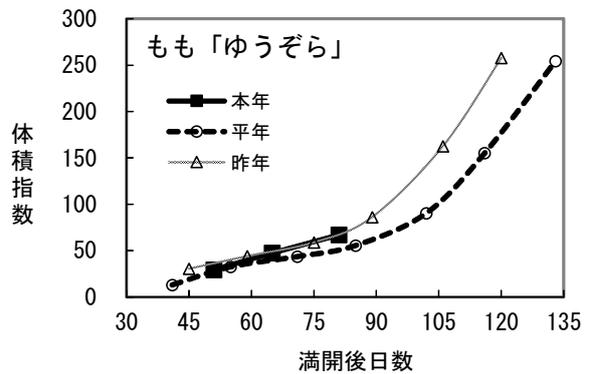
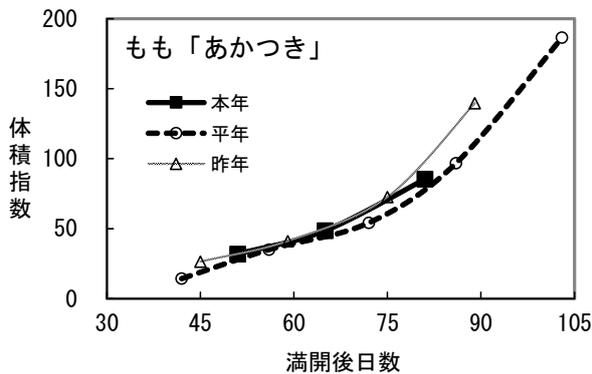
7月1日における土壌水分 (pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで1.6、深さ40cmで2.3、深さ60cmで2.7となっており、ここ最近の降雨にもかかわらず、深さ60cmでは乾燥状態にあります。

3 発育状況

(1) もも

ア 果実肥大

7月1日の暦日比較では、「あかつき」は縦径が54.0mmで平年比115%、側径が54.5mmで平年比121%と平年より大きく、「ゆうぞら」は縦径が51.7mmで平年比113%、側径が49.3mmで平年比120%と平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較でも、「あかつき」と「ゆうぞら」とともに平年より大きい状況です。



イ 新梢生長

表1 ももの新梢生長 (満開後80日比較)

	新梢長 (cm)			展葉数			葉色 (SPAD値)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	9.5	12.8	74	14.1	15.5	91	42.7	43.8	97	90.0	87.4	103
ゆうぞら	21.6	13.3	162	18.3	14.4	127	41.1	44.8	92	53.3	89.8	59

※ 平年値：1987年～2014年の平均値

新梢停止は「あかつき」が平年並で、「ゆうぞら」は平年に比べ遅れています。

ウ 核障害の発生

「あかつき」の満開後75日における核障害の発生は、核頂部の亀裂が30%、縫合面の割裂が10%であり、過去16年間の平均と比較するといずれも少ない状況です。

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

エ 収穫期の予測

「あかつき」の硬核期間は平年並で、硬核期の終了は6月20日頃でした。

7月1日現在、DVRモデルによる「あかつき」の収穫期予測では、本年の収穫開始は7月25日頃、収穫盛りは7月29日頃で、平年より8日早い見込みです。

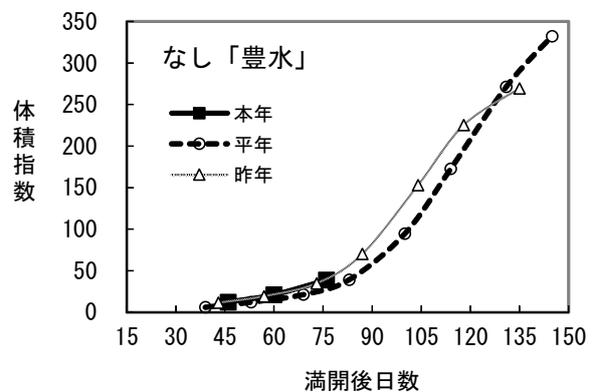
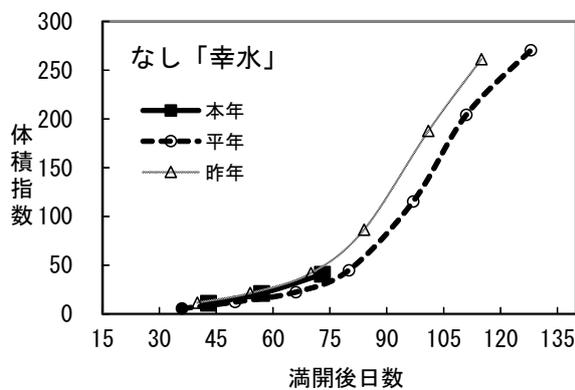
オ 早生種の収穫

早生品種「はつひめ」の収穫始めは6月30日頃で平年より8日早まりました。

(2) なし

ア 果実肥大

7月1日の暦日比較では、「幸水」は縦径が37.7mmで平年比120%、横径が45.5mmで平年比123%、「豊水」は縦径が39.0mmで平年比118%、横径が43.7mmで平年比124%と両品種ともに大きい状況です。また、満開後日数による比較でも、「幸水」、「豊水」ともに平年より大きい状況です。



イ 着果状況

1回目の仕上げ摘果後の1樹あたり着果数は983果(3.3㎡あたり51果に相当)であり、摘果率((初期着果数-1回目仕上げ摘果後着果数)/初期着果数×100)は23.3%でした。

ウ 新梢生長

表2 「幸水」の満開後70日における新梢生長

予備枝新梢長(cm)			不定芽新梢長(cm)			予備枝葉数(枚)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
115.0	109.0	106	100.6	94.0	107	30.1	29.5	102

※ 平年値：新梢長、新梢停止率は1990年～2015年、葉枚数は1998年～2015年の平均値

表3 「豊水」の満開後70日における新梢生長

予備枝新梢長(cm)			不定芽新梢長(cm)			予備枝葉数(枚)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
104.5	103.8	101	90.7	87.3	104	28.3	28.1	101

※ 平年値：新梢長、新梢停止率は1991年～2015年、葉枚数は1998年～2015年の平均値

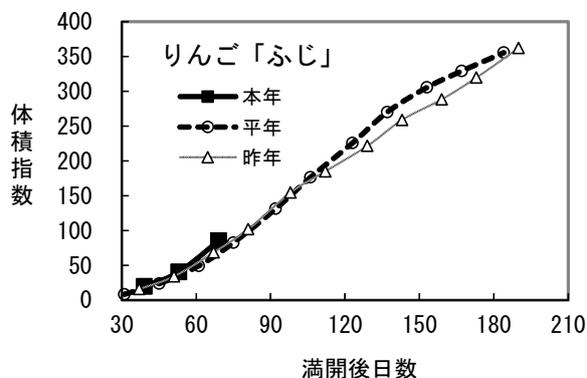
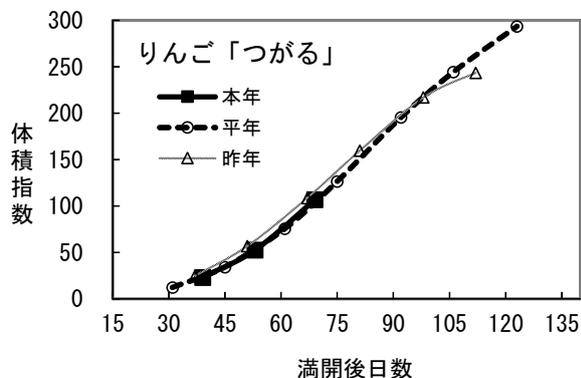
エ 収穫期の予測

DVRモデルによる「幸水」の収穫期予測は、収穫盛期が8月24日(満開後127日)と推測され、平年より7日早い見込みです。なお、同モデルによる裂果初発日は7月5日(満開後77日)と推測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大

7月1日の暦日比較では、「つがる」は縦径が53.1mmで平年比109%、横径が62.0mmで平年比114%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が50.2mmで平年比114%、横径が56.9mmで平年比123%と平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「つがる」はほぼ平年並で、「ふじ」は平年より大きい状況です。



イ 新梢生長

りんごの新梢停止時期は満開後50日で100%に達し、停止時期は平年並でした。

(4) ぶどう

ア 新梢生長

発芽70日後における「巨峰」(有核栽培)の新梢長は平年よりやや長く、展葉数は平年並でした。また、「巨峰」(無核栽培)の新梢長は平年よりやや短く、展葉数は平年よりやや少ない状況です。

4 栽培上の留意点

(1) も も

ア 早生品種の収穫

現在、早生品種の収穫が始まっています。核や胚に障害を持つ果実は、成熟が早まりやすい傾向にあるため、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないように留意しましょう。収穫期以降、降雨日が続いていることから、核障害等の果実は早期に処理し、収穫全体への影響を少なくするように努めましょう。

イ 修正摘果

硬核期が終了し、肥大不良果や変形果、核に障害をもった果実などが徐々に目立ってきています。このため、収穫を控えた中生種の修正摘果は数回に分けて丁寧に実施するとともに、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮の一部が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果を実施しましょう。

ウ 中生品種の収穫前管理

収穫期予測では、「あかつき」の収穫期は平年より8日早い見込みです。「あかつき」等中生種は今月上～中旬頃から着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。また、降雨により園内に停滞水がみられる場合には、明きよを掘るなど速やかな排水に心がけましょう。

(2) な し

ア 新梢管理

「幸水」では、裂果初発日（果樹研予測：7月5日）から3日程度遅れて新梢停止期（全体の95%の新梢伸長停止）を迎えます。腋花芽着生向上を主な目的として新梢誘引を実施する場合、「幸水」では新梢生育が旺盛な時期に新梢誘引を行うと効果的なので、この裂果初発予測日前に予備枝誘引作業のピークとなるように作業を進めましょう。

また、新梢誘引は腋花芽着生向上のほか、樹体の受光条件向上、薬剤の効果的散布、翌春における長果枝棚付け作業の効率化なども期待できるので「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

イ 着果管理

仕上げ摘果はできるだけ速やかに終了させましょう。この際、着果過多にならないよう、単位面積あたりの着果量を確認しながら摘果作業を進めましょう。なお、裂果が観察される時期の摘果は他の果実の裂果発生を助長する恐れがあるので控えましょう

(3) りんご

ア 着果管理

りんごでは、7月に入ると花芽分化期を迎えます。仕上げ摘果の遅れは花芽分化率を低下させる原因となるので、終了していない場合は早急に作業を進めましょう。

仕上げ摘果終了後は、随時修正摘果を実施し、小玉果や変形果、病虫害の被害果、傷果、サビ果等を摘果しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実肥大にともない枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため、支柱立てや枝吊りを実施しましょう。

(4) ぶどう

ア 着房数管理

着房過多は、糖度上昇の遅れや赤熟れ果の発生の要因となります。また、耐寒性の低下や翌年の発芽不良、樹勢の低下などにも影響することから、ベレーゾン（水回り）期までに着房数の見直しを行い、適正着果量に調整しましょう。「巨峰」や「高尾」では1新梢1果房を原則に摘房し、弱い新梢には着房させないようにしましょう。最終着房数の目安は「巨峰」では3.3㎡当たり9～10房、「高尾」では10～11房とし、樹勢や今後の天候の推移をみながら適宜調整を行いましょ。特に、夏季に低温・日照不足が続く場合には、着房数の制限が必要です。

イ 袋かけ・カサかけ

摘粒作業が終わり次第、薬剤散布を行い袋かけ・カサかけを行いましょ。この作業は病虫害防除や果実の汚れ防止、日焼け防止のために重要な作業です。また、使用した袋枚数を把握し着果量調整の目安としましょ。棚面が明るい部分では果房に直接強い日光が当たり、日焼けなどの高温障害を引き起こすため、遮光率が高いカサの利用や直射日光が当たらないように新梢の誘引を見直す必要があります。

(5) 共通

梅雨期は降水量が多く、湿害の危険性が高まります。土壌の過湿は、葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、停滞水が発生しやすい園地では排水対策を徹底しましょ。また、落葉した場合は着果量の見直しを行いましょ。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご輪紋病・褐斑病

果実、枝梢部ともに輪紋病に感受性が高い時期となります。また、梅雨期間中であり、降雨日が多くなると褐斑病の発生にも注意が必要です。7月上旬にいずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布しましょう。

イ ももせん孔細菌病

新梢葉での発生は平年並ですが、果実での発生は平年より多い状況にあります（平成28年6月29日付け病害虫防除情報）。罹病部は二次伝染源となるため、見つけしだいせん除して適切に処分するなど、耕種的防除を徹底しましょう。薬剤防除は、収穫前日数に十分注意して実施しましょう。

ウ もも灰星病・ホモプシス腐敗病

早生種では灰星病の重要防除時期にあたるので、7月上旬および中旬に灰星病防除剤を散布しましょう。中～晩生種では灰星病とホモプシス腐敗病を同時防除するために、いずれの病害にも効果のある薬剤を散布しましょう。

エ なし黒星病・輪紋病

黒星病の発生は平年並～少ない状況です（平成28年度病害虫発生予察情報・発生予報第3号）が、梅雨期間中のため注意が必要です。また、輪紋病の重点防除期にあたるため、7月上旬および中旬に7～10日間隔で黒星病、輪紋病に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。さらに、黒星病の罹病部位は見つけしだい取り除きましょう。

オ ぶどう晩腐病・べと病

袋掛け前に薬剤散布を行い、散布後速やかに袋掛けを行いましょう。

(2) 虫 害

ア 主要チョウ目害虫

現在の主要チョウ目害虫の発生時期は平年に比べてやや早めに推移しています。フェロモントラップのデータ等を参考にしながら防除が遅れないように注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第2世代の防除適期は6月5～6半旬であったと推定されるため、防除を実施していない場合には速やかに実施しましょう。本種はもも等の核果類の新梢伸長が停止するとなし果実への寄生が増加します。また、高温年は交信かく乱剤のフェロモン成分が急激に揮発するため、7月下旬頃から交信かく乱効果が低下する場合があります。例年、ナシの果実被害が多い地域では、今回の第2世代から防除を徹底しましょう。

ウ モモノゴマダラノメイガ

フェロモントラップによる調査では越冬世代の誘殺ピークは6月10日でした。本種の誘殺は7月上～中旬に一旦少なくなった後、7月下旬頃から再び増加します。被害が予想されるもも園では、7月2半旬頃まで防除を継続しましょう。なお、被害果実は見つけしだい摘除して5日間以上水漬けするか、土中深く埋めましょう。

エ モモハモグリガ

モモハモグリガ第2世代成虫の発生盛期は6月5半旬であったと推定されるため、第3世代の防除適期は6月6半旬頃であったと考えられます。防除を実施していない場合には速やかに実施しましょう。本種の発生には無防除の花もも園や放任園などが影響していると考えられるため、無防除園の管理や放任園の伐採等を行きましょう。

オ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行きましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>